

色鍋島・今右衛門の伝統
十四代 今泉今右衛門

- ・ 有田のはじまりと歴史
- ・ 歴代の今右衛門と伝統工芸
- ・ 十四代今右衛門の制作





泉山磁石場



染付草花更紗文鉢

古伊万里様式（17世紀前期）



色絵草花文髷皿

古伊万里様式（18世紀前期）





色繪秋草文花瓶

古伊万里様式（17世紀中期）



鉢文磯荒絵色

古伊万里様式（18世紀前期）



色絵宝尽くし文皿

鍋島様式（17世紀後期）



染付藩窯図皿

鍋島様式 (19世紀中期)



色絵糸卷文皿

鍋島様式（17世紀後期）



染付月兎文皿

鍋島様式（17世紀後期）



十代今右衛門作



十一代今右衛門作



十一代今右衛門作

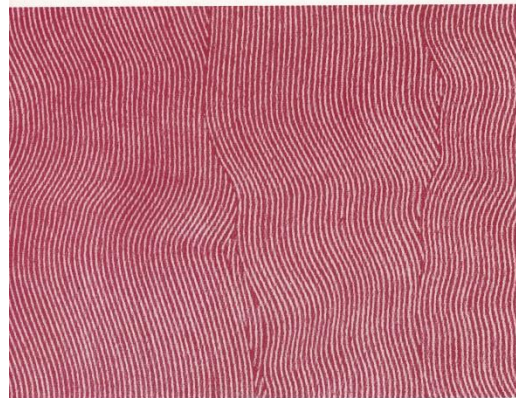


十三代今右衛門作

日本の伝統工芸の流れ

- ・江戸期は全国の各藩が各地の工芸が奨励される。
- ・明治になり、藩の保護を失うとともに西洋化の波が押し寄せ、伝統工芸は衰退の一途を辿る。
- ・明治中期、岡倉天心らが工芸の衰退を憂い、東京美術学校(東京芸大)を設立する。
- ・昭和24年の法隆寺金堂壁画の焼失を機に、文化財保護の機運が高まり、文化財保護法が制定され、有形文化財とともに、工芸技術や芸能などの重要無形文化財の指定が行われる。
- ・昭和29年文化財保護法の改正を経て、第一回日本伝統工芸展が開催され、その後日本工芸会が設立される。

第一回無形文化財 日本伝統工芸展



会 期・3月16日～21日
会 場・日本橋三越 7階

主催・文化財保護委員会
財団法人文化財協会
後援・朝日新聞社
協賛・関係各都府県教育委員会



日本橋

三越

日本伝統工芸展・趣旨

我が国には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。

伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質をもちながら、一瞬もとどまるこのないのが本来の姿であります。

伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来 of 技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受けついだ優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。



自然との関わり方 '84

今泉雅登 作 (大学4年)







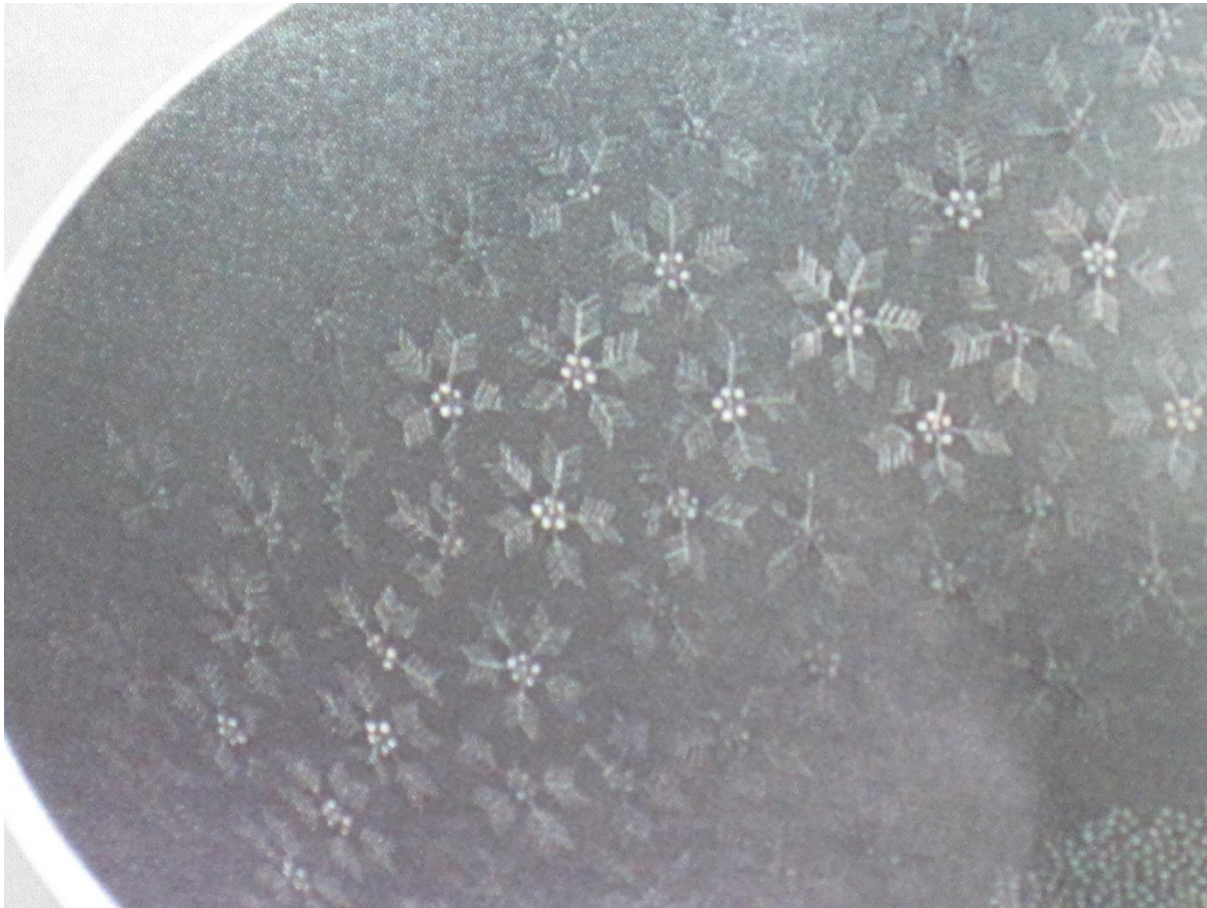




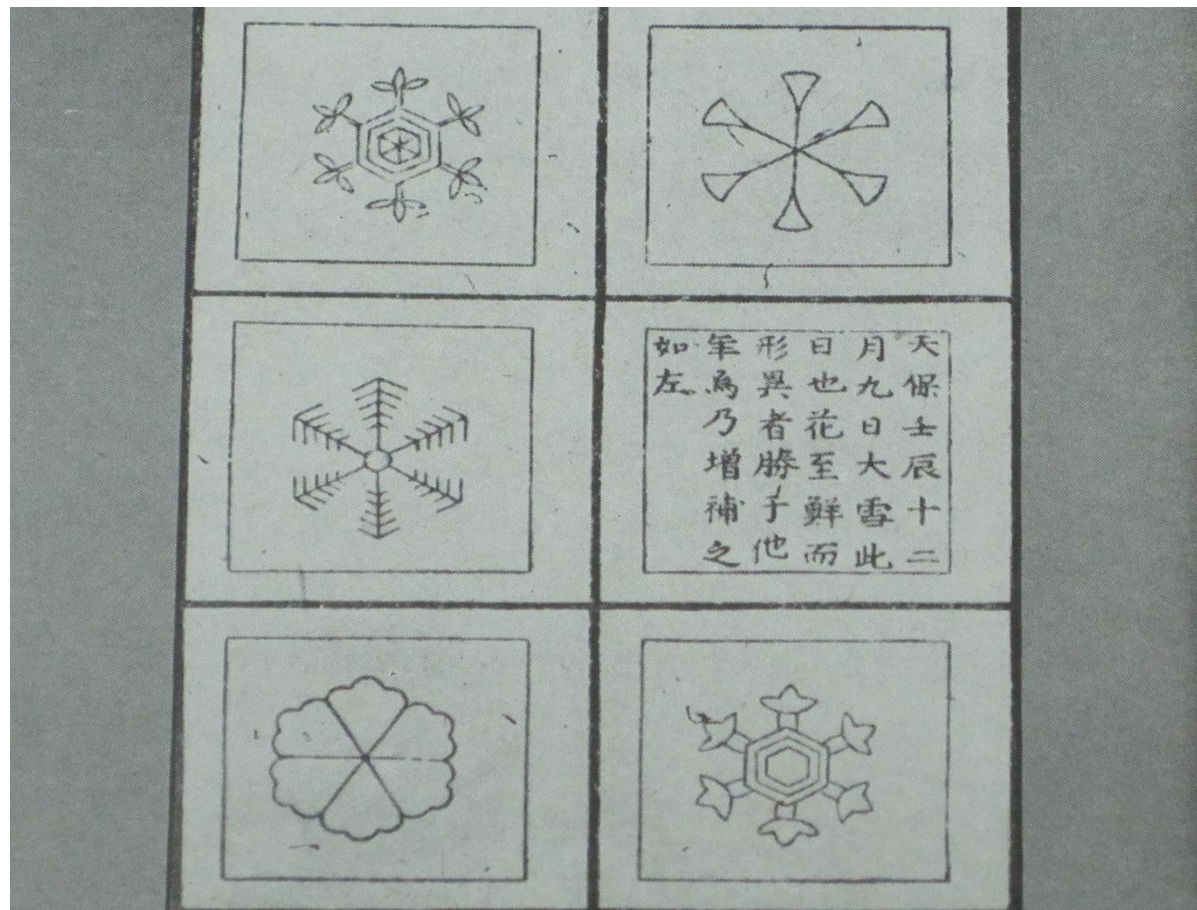












中谷宇吉郎
花島政人

霜の花

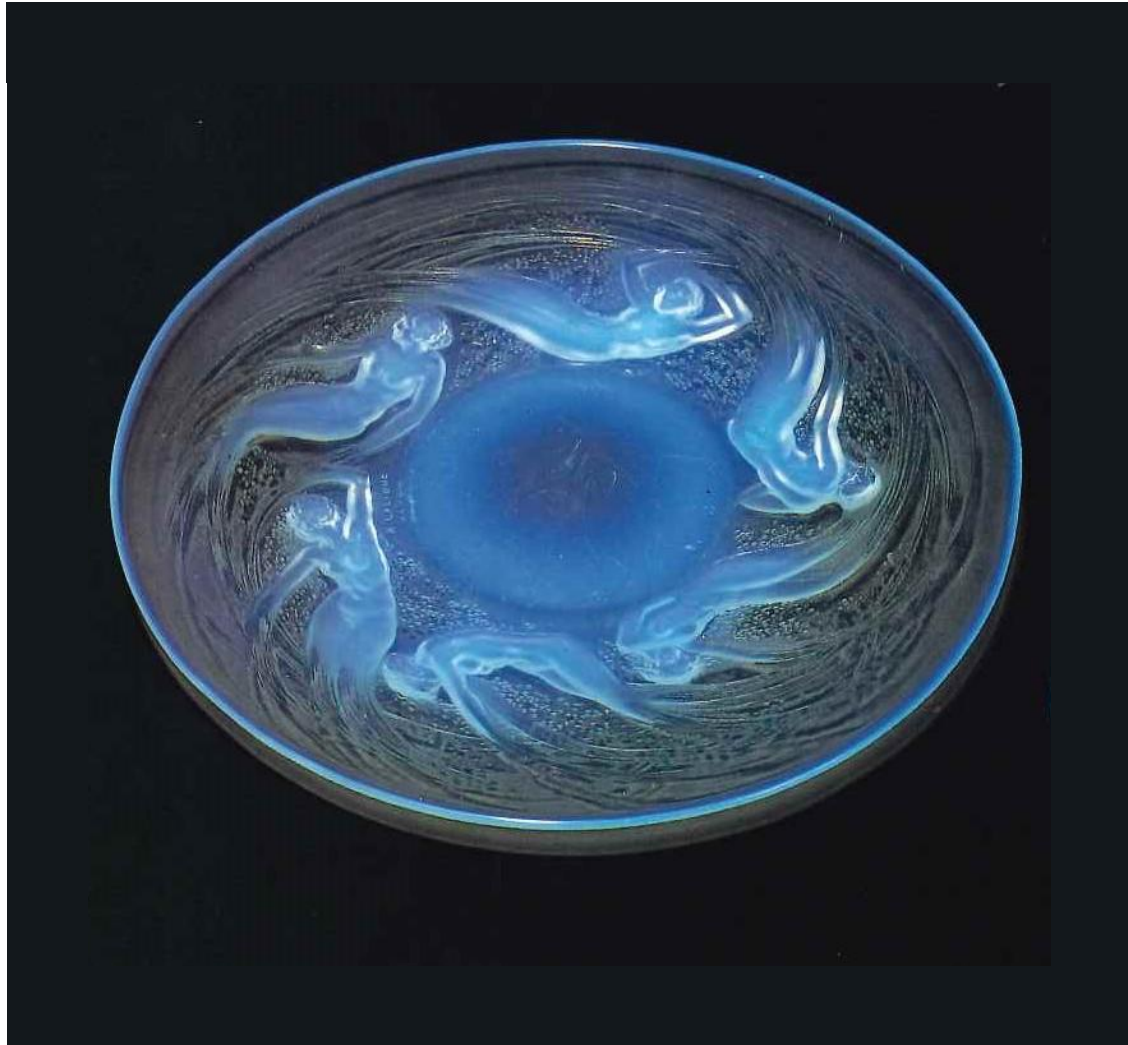
甲文社













色絵薄墨墨はじき水流文鉢

十四代 今泉今右衛門

















大阪市立東洋陶磁美術館蔵





日本工芸会総裁賞
織工芸 = 硝子重箱「織花」
和泉香織



高松宮記念賞
染織 = 生絹着物「万葉緯緯」
神谷あかね

第72回 日本伝統工芸展

THE 72nd JAPAN TRADITIONAL Kōgei EXHIBITION

日本工芸の技と美が集結する公募展

入場
無料

9月3日[水]—15日[月・祝] 日本橋三越本店 本館7階 催物会場
午前10時～午後7時 ※最終日は午後5時まで

主催：文化庁、東京都教育委員会、NHK、朝日新聞社、(公社)日本工芸会
協賛：(公財)アサヒグループ財団、(公財)岡田茂吉美術文化財団、パナソニックホールディングス株式会社、(公財)ボークス伝統文化振興財団、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
協力：有限責任 あすき監査法人、株式会社ARTerrace、アンカー・シップ・パートナーズ株式会社、Eまちグループ株式会社、株式会社オープンドア、共栄タンカー株式会社、株式会社銀座もとじ、株式会社久原本家グループ本社、株式会社佐賀共栄銀行、マツダ株式会社、株式会社安川電機、株式会社大和産業ホールディングス
特別協力：株式会社三越伊勢丹ホールディングス、日本通運株式会社



文部科学大臣賞
人形 = 桐壺布和紙貼「星取り」
木村美智子



東京都知事賞
木竹工 = 盛麗「瑞花」
本田青海



NHK会長賞
金工 = 烏うり 金具
竹花万貴



朝日新聞社賞
漆芸 = 沈金象嵌室石箱「希海」
水尻清甫



日本工芸会会長賞
陶芸 = 織彩鉢
早川 嘉



日本工芸会保持者賞
陶芸 = 備前道清白磁花器
隠崎隆一